

平成29年度 教育活動等に対する学校評価書

(自己評価及び学校関係者評価結果書)

学校法人くるみ学園 くるみ幼稚園

1 くるみ幼稚園の教育目標

明るい子・・・だれとでも楽しく遊べる子
がんばる子・・・じょうぶで、ねばり強い子
かんがえる子・・・自分から創りだしていく子

2 本年度の重点目標

掛川市内でも少子化で子どもが減っていることに加え、保護者のライフスタイルの変化から保育園志向が高まっている状況下、各私立幼稚園は特色を出しながら園児獲得を模索している。当園も、50年以上を掛けて培ってきた保育内容を精査し園としての教育特色を整理し外部に発信させることで、園児が集まる園を目指す。

3 教職員による、評価項目に対する自己評価(平成30年2月下旬～3月上旬実施)

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
1. 保育の計画性	年間計画・月案・週案・日案に沿って、綿密で細かい計画を立てつつ保育を実践出来た。前年度以前を参考にしながら、さらに保育活動の開始時期を調節することで、行事に対する取り組みで余裕を捻出することが出来た。	A
2. 保育の在り方、 幼児への対応	子どもたちがまだ表現しにくい「心の声」を丁寧に汲み取りながらの保育内容を重視して活動を進め、それらはほぼ達成出来たように感じる。加えて、個々が持っている能力よりも少しだけ難しいものに挑戦させ、達成感を味わわせることを主なねらいとしながら、ねらいを達成できたかを適宜反省しながら翌日以降に生かせるようにした。 クラス担任だけが一人でクラス全員を見るのではなく、全保育者で全員の子どもを一人ひとり見つめ、良い所を認め伸ばせるように、子どもの小さな変化でも保育者同士で連絡し合うように努めた。	A
3. 保育者としての 資質、能力・良識・ 適正	子どもに接する上では、保育者自身の人間性が重要であるという認識の元、日頃から読書・新聞を読む・芸術に触れるといった感性を豊かにすることを意識して実践。若い保育者をベテランが指導し、アドバイスを与えて能力を引き出す体制が出来上がっている。	A
4. 保護者への対応	子どもたちの園での様子は、連絡帳や保護者との面談等を使用して連絡を密に取るように心掛けた。文章で無くて肉声で直接連絡が必要な事項は、保育終了後に電話連絡をしたり直接顔を見て会話をしたりした。保護者と保育者との信頼関係は良好であると思われる。	A
5. 地域の自然や社 会とのかかわり	園が市中に位置している関係から、自然との関わりに乏しくなってしまうが、ちではあるが、公園まで歩いて園外保育に出かけ、時には園バスを使って遠くの緑豊かな公園まで赴き、虫取り・木の実拾いなどの自然の中で遊ぶ計画を立てて実行した。	B

6. 研修と研究	年度当初より、食育を通して『人とかかわる心を育む』ことを研究のテーマと定め、一年間を通して資料を集めながら、その成果を保育者全員で話し合った。また、成長に問題のある子については、学期ごとに様子を発表・話し合いを行って情報を共有し、保育者全員で問題意識を持って関わりを深めていけるようにした。	A
----------	---	---

※自己評価結果の表示方法

- A…十分達成された
- B…達成された
- C…取り組んだが達成が十分ではない
- D…取り組みが不十分であった

4 次年度以降に取り組む課題

当年度を踏襲しながら保育を行うが、くるみ幼稚園の50年以上に及ぶ幼児教育のカリキュラムを見直し、新要領等に即したさらに進化させたものにしていきたい。
--

5 教職員自己評価に対する学校関係者評価

評価者：くるみ幼稚園学校関係者評価委員会		
評価日：平成30年 3月 6日		
評価項目	学校関係者評価委員意見	評価結果
1. 保育の計画性	一人ひとりの保育者が園の教育方針を理解して思考しながら、年・月・日のカリキュラムをしっかりと立てて保育を行っている様子がとても良く分かった。職員会議や反省会を行うことでさらに密度の濃いものとなっている。	A
2. 保育の在り方、幼児への対応	教員間の連携が非常によく取れている。子どもたちへの対応も、全教員が、全園児の状態をほぼ把握している様子が伺え、大変良い。	A
3. 保育者としての資質、能力・良識・適正	自分たちの保育に対する誇りと自信が随所に見られ、他園と比べてみても、くるみ幼稚園の教職員たちは保育に対して非常に熱心である。常に物事を吸収して保育に生かしていこうという姿勢があるからだろう。ベテランと若手のバランスがうまく取れており、新人が育つ環境が整っていると思われる。	A
4. 保護者への対応	保護者と連絡を密に取ることで、子どもの状態を把握していこうとする姿勢が見られた。それらが信頼となって、強い絆を築いている。	A
5. 地域の自然や社会とのかかわり	自然に触れる機会が少なくなってしまうのは場所柄の問題もあるが、残念であろう。工夫して自然との関わりをもう少し工夫したい。	B
6. 研修と研究	テーマを決めて研究を深め、自身の能力を上げようとする環境が整っている。教員同士で切磋琢磨する姿勢が、良い意味で出ているように見えた。	A

※学校関係者評価結果の表示方法

- A…十分に達成されていた
- B…まずまず達成されていた
- C…取り組みは見られるが達成が十分ではない
- D…取り組みが不十分であった